

APMLA2025 死後画像読影ワークショップ開催レポート
(Korea-Japan Postmortem Imaging Interpretation Workshop with APMLA)



2025年9月15日から19日まで、韓国・仁川で開催されたAPMLAにて、死後画像読影ワークショップを行う機会をいただきましたので、その様子をご紹介します。

今回のワークショップは韓国 National Forensic Sciences 主催で行われました。きっかけは2024年にウォンジュで開催したワークショップで、韓国側責任者の Dr. Sohyung Park から「ぜひまた実施したい」とお声かけいただいたことでした。その思いを受けて、JSFRIでは研究会内にワーキンググループを立ち上げ、準備を進めてきました。

プログラムの内容

プログラムは通常の講義（一般的な死後画像、法医領域の死後画像、読影ワーク）に加え、事例検討も組み込みました。講義は例年より人数を増やし、以下の先生方にご登壇いただきました。

- JSFRI から：福本先生（広島大学）、吉田先生（千葉大学）、槇野先生（東京大学）
- 韓国から：Heon Lee 先生（Hongseong Medical Center）

90分間の読影ワークのあとは、石田先生（東京医科大学）、Minju Lee 先生（NFS）、Won Joon Lee 先生（NFS）が事例検討を担当してくださいました。

SSDを利用して参加いただいたのは30名ほどでしたが、1台を複数人で囲み、ディスカッションしながら進めるグループも多く見られました。会場は立ち見が出るほど盛況で、APMLA会長の Noel Woodford 先生（VIFM）もご参加くださるなど、大変にぎやかな雰囲気となりました。

振り返って

一方で、改善点も見えてきました。たとえば、一部の参加者が DICOM viewer を事前にインストールしておらず、会場でサポートが必要になったことや、プログラム中に休憩を設け

なかったため、少しメリハリに欠ける進行になってしまった点は反省材料となりました。

次につなげて

帰国後、ワーキンググループではさっそくプログラムの見直しを始めており、複数の改善策に取り組んでいます。来年（2026年）の IAFS（5月）や KCR（9月）では、さらに充実した内容で、より多くの皆様にご満足いただけるワークショップをお届けできるよう、メンバー一同で準備を進めてまいります。



講義中の様子

韓国のほかインドネシア、タイ等の法医学関連施設からたくさんの先生が参加くださいました

文責：兵頭（WG 委員長）